

乳幼児期の自然体験活動の充実に
向けた講演会

第2部 子どもも大人も共
に育つ自然保育

自然の中の保育は
ええね！保育が楽
しゅうなるわ

平成30年3月10日

広島大学附属幼稚園
松本信吾(シンゴリラ)

会場：はつかいち文化ホールさくらぴあ



「森の幼稚園フォーラム」にて

撮影：小西貴士(ゴリ)

自己紹介

名前: シンゴリラ

仕事: 保育者歴20年ぐら
い。今年度は3歳児の担
任

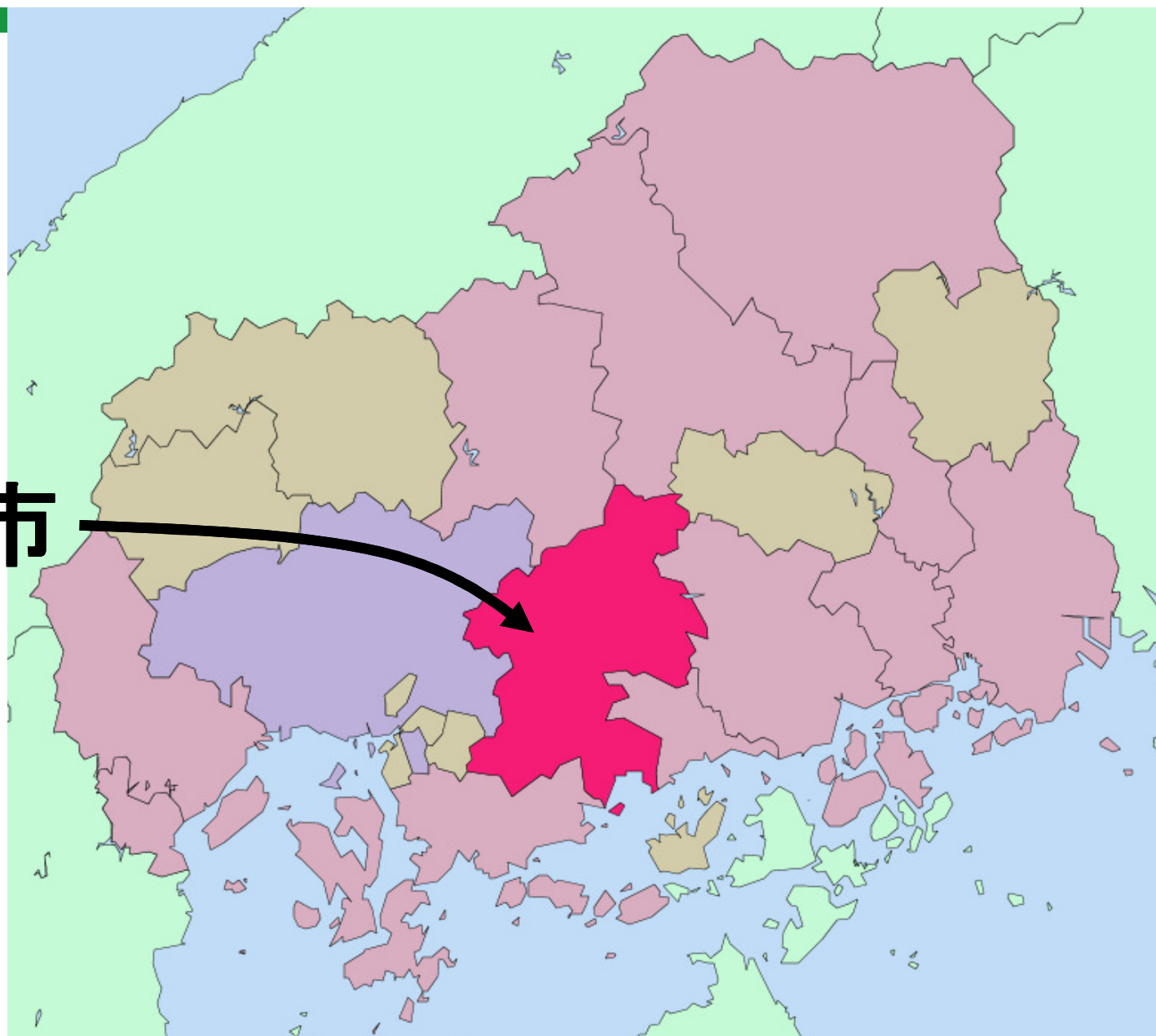
趣味: 山登り、マラソン、
植物を見る、おやじバン
ド、森で遊ぶ



ギターを弾くシンゴリラ

園の紹介 (立地)

東広島市



園の紹介 (立地)



立地 (平成2年に広島市から移転)



保育形態

保育時間

- 8:50～14:00(月、火、木、金)
- 8:50～11:30(水)

弁当持参・送迎

保育料は、公立幼稚園並み

- 3歳児クラス 20名
- 4歳児クラス 30名
- 5歳児クラス 30名

スタッフ:園長<兼任>、副園長、担任3名、養護教諭、非常勤副担任3名、フリー1名、事務員1名)

自然保育導入の経緯

- H2 広島市より移転
 - H18:「森の幼稚園」構想開始
 - H19 ヨーロッパ森の幼稚園視察(松本)
 - H21 試行的に「森の日」実施(5歳児)
※「森の日」:保育室を使わずに一日中森で過ごす日
 - H22:全年齢で「森の日」開始。
(森の日:保育室に入らず、直接森に登園して、降園まで過ごす日、週1回程度)
- ★その際、インタープリター(自然と人との「仲介」となって自然と人とを結びつける人物)として「**森の達人**」を招聘

2. インタープリターの意義

平成22年より「森の達人」を招いての「森の日」の実施



2. 「森の達人(インタープリター)」の意義

●インタープリター: 自然と人(子ども)との「仲介」となって自然と人とを結びつける人物

※しかし、決して子どもに専門知識を教える人ではない。

・知識を伝えられても、子どもたちは興味を示さない

「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない
(レイチェル=カーソン)

2. 「森の達人(インタープリター)」の意義

- ・ 子どもよりも**保育者が**森の達人に学ぶことが多い

○身の回りにある自然物の特性

- ・ 身近な食べられるもの
- ・ 色水など遊びに使えるもの
- ・ 薪など生活に使えるもの
- ・ 危険なものとは危険でないもの(ケムシ、キノコ、かぶれの木など)

＜先人が遊びや生活に使ってきた歴史を学び、自分自身に身に付けることができる＞

2. 「森の達人(インタープリター)」の意義

- **森の達人による保育者の学び**

☞ 今まで見えなかった身の回りの自然が、見えてきて、感じられるようになる。

→ 保育者自身が自然の中にいることが楽しくなる

☞ 周りの自然に対する知識が増えてくる

→ 危険かどうかをすることで、保育者がむやみに子どもに禁止することがなくなる

 **余裕をもって保育を行うことができる。
保育が楽しくなる。子どもも喜ぶ。**

身近にあるたくさんの食べられるものの発見(味覚)



「森」の教育力を活かした保育実践

危険と危険でないものの認知(触覚)



危険なものとは危険でないもの



3. 自然の中で保育を行うことによる保育者の変化

1. 自然物と人工物
2. 戸外と保育室内
3. 時間の流れ
4. 保育者の感じ方

人工物

- 意味が規定されている
- 正しい遊び方使い方が決まっている
- 使ったらゴミになる
- 規格化されている

自然物

- 意味が規定されていない
- 正しい遊び方, 使い方がない
- 捨ててもゴミにならない
- 同じものが一つもない

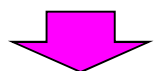
保育室内

- 時間に縛られている
- やることが決まっている
- 禁止やルールが多い
- 散らかしたり汚したら×
- 保育者があくまでコントロールしようとする

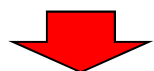
戸外

- 時間の制約がない
- やることが決まっていない
- 禁止やルールが少ない
- 散らかしても汚してもOK
- 保育者がコントロールを諦めている

保育室内

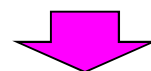


- 禁止、制約にあふれている
- 保育者が叱ったり、止めたりすることが多くなる



× 遊び込みにくい
× 保育者がNoとい
いやすい

自然の中



- したいことが伸び伸びできる
- 保育者が叱る必要がない



○遊び込みやすい
○保育者がyesと受け止めやすい

3. 自然の中で保育を行うことによる保育者の変化

※つまり、自然の中で保育を行うことは、保育者自身も大きな自然に抱かれることで、ゆったりとした気持ちで構えやすく、**子どもの気持ちを受け止める**という、**保育者本来の働き**がやりやすくなるという特徴がある。

※大きなものに抱かれているということは、保育者自身も小さい存在だということ。絶対にミスをしていない存在ではなく、**子どもと一緒に感じ、驚き**、虫が苦手な人は苦手なままに、一緒に過ごせるということ(**教育的スタンスの後退**)

同じものはない



美しさがある



誰とも違う多様な表現が可能



3. 自然の中での保育へのいざない

1. 身近な自然の中に出かけてみよう

(子どもに経験させるのではなく、保育者自身が自然の中を楽しむ。子どもの気づきに共感する。保育者自身が自然に目を開かされる)

2. インタープリターを活用しよう

(保育者自身の目を見開かせてくれる人を活用。近くにいなければ管理職に頼む。管理職は県の安心保育推進課に頼む。きっと紹介してくれるはず)

◇ありがとうございました◇

- ・みんなで自然の中での保育を楽しみましょう！
- ・機会があれば、ぜひ「森の幼稚園」(広島大学附属幼稚園)に遊びおいでください。



ギターを弾くジゴリラ